

# 令和4年度 市町村災害廃棄物処理計画 策定支援事業業務

## 報 告 書 要 約 版

令和5年3月

環境省北海道地方環境事務所

請負：アジア航測株式会社

## 【業務目的】

道内では日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震による大規模な津波被害が想定されており、災害廃棄物処理計画の策定が重要であるが、道内市町村の策定率は非常に低い。そこで、未策定自治体に処理計画の重要性を認知させるとともに、処理計画策定に必要な基礎知識を習得させ、計画策定の意思がある市町村には強力なバックアップを実施し、道内の廃棄物処理計画の策定率を向上させる。

## 【業務項目】

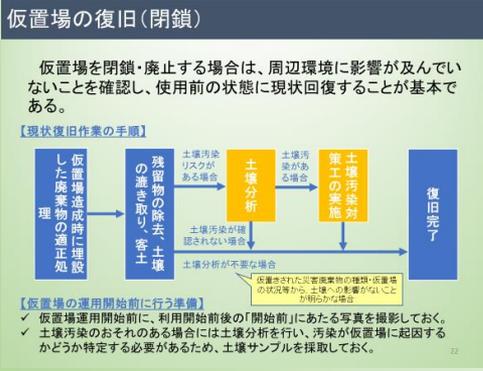
- ①勉強会の開催：4か所で各1回
- ②災害廃棄物処理計画骨子案の作成支援
- ③留意事項
- ④業務報告書の作成

## 【勉強会の開催】

全道の自治体担当者を対象に、災害廃棄物処理計画の有効性についての講義、災害廃棄物処理に携わった方による講演、及び初動に関する図上演習に関する勉強会を、紋別市、浜頓別町、羽幌町、倶知安町でそれぞれ1回、合計4回開催した。

## 勉強会の主な内容

主な内容	詳細
災害廃棄物処理計画の有効性についての講義	災害廃棄物処理計画とは 近年の災害の特徴 災害廃棄物処理計画策定の目的 ワークシートについて
災害廃棄物処理に従事された方によるご講演 ＜講師：米津浩幸氏＞	発災直後から現場へ行かれるまでの経緯 担当地域の自治体担当者との連絡体制等について 災害廃棄物処理のご様子 ボランティアの方々との協働について 質疑、ディスカッション
初動に関する図上演習	話題提供（仮置場について） 演習1：【テーマ1】 災害廃棄物発生量、仮置場面積の概算 演習2：【テーマ2】 一次仮置場の選定 意見交換会：【テーマ3】 仮置場設置のために平時に準備する事項



## 講義資料

【災害廃棄物処理計画骨子案の作成支援】

骨子(案)策定の支援として、自治体からの相談を電子メール等により随時受け付け、常時疑義照会を行う体制を整備した。また、現地等での確認が必要な自治体に対しては、自治体へ訪問し対面による支援を行った。ワークシートの作成が困難な自治体については要望に応じ、記載内容を請負者側から提示するなどいわゆるPush型による骨子(案)作成支援を行った。なお、相談対応、Push型支援を行った自治体を含め、50自治体程度の処理計画骨子案を作成した。

支援した自治体

振興局 エリア	相談対応	Push型支援
後志	1自治体	2自治体
留萌	0自治体	2自治体
宗谷	2自治体	2自治体
オホーツク	0自治体	1自治体
計	3自治体	7自治体

【留意事項】

勉強会の開催にあたり、新型コロナウイルス感染防止対策として、ソーシャルディスタンスが十分に確保できる会場を確保し、下図のような掲示も行った。

また、対面での参加が困難な自治体に対し、リモート開通試験や操作方法を説明した。また、希望する参加者にリモート用の機器を貸し出した。



【業務報告書の作成】

成果品を関係機関256箇所へ送付した。また、ブロック協議会において本業務の実施成果を報告した。

# ①勉強会(紋別市開催)

開催日時	開催場所	参加者
令和4年10月7日 10:00~16:00	紋別市立博物館 郷土学習室	紋別市、遠軽町、遠軽町、 滝上町、興部町(5市町村) オホーツク総合振興局

## ■講義資料

### 令和4年度 市町村災害廃棄物処理計画 策定支援事業

- 1 災害廃棄物処理計画とは
- 2 近年の災害の特徴
- 3 災害廃棄物処理計画策定の目的
- 4 ワークシートについて



### 事例: 令和元年台風19号発生からの流れ

- 令和元年台風19号における、災害廃棄物処理の事例紹介
- 発災当時の「災害廃棄物処理計画」
  - ✓ 長野県●●市 : なし
  - ✓ 長野県○○市 : 策定済み

フェーズ	1) 安全及び継続性確保の確保 「安全対策の利便」(p.14)	2) 被害情報の把握 「被害情報の把握」(p.15)	3) 生活への影響を軽減するための対応 「生活への影響を軽減するための対応」(p.16)	4) 災害廃棄物の処理体制の確保 「災害廃棄物の処理体制の確保」(p.17)	5) 被災者の生活再建支援 「被災者の生活再建支援」(p.18)
~12月 【本県の対応】 ① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の生活再建支援 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援			
~24時間 【本県の対応】 ① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の生活再建支援 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援			
~3日 【本県の対応】 ① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の生活再建支援 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援			
~1週間 【本県の対応】 ① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の安全確保 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援	① 被災者の生活再建支援 ② 被災者の生活再建支援 ③ 被災者の生活再建支援 ④ 被災者の生活再建支援			

### 事例: 令和元年台風19号発生からの流れ



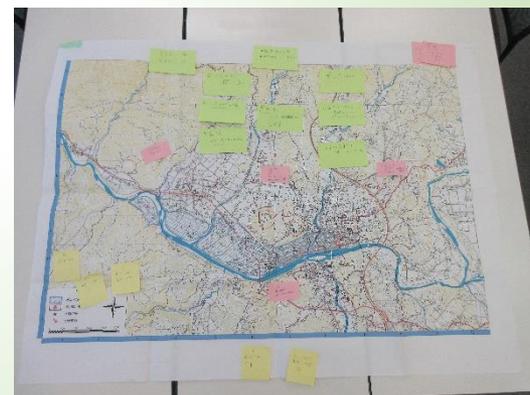
株式会社  
ALIA ARE SUNNY CO., LTD.  
防災・復興支援

# ①勉強会(紋別市開催)

## ■講義・講演



## ■演習・意見交流会



# ②勉強会(浜頓別町開催)

開催日時	開催場所	参加者
令和4年10月24日 10:00～16:00	浜頓別交流館 多目的ルーム	浜頓別町(1市町村)

## ■講義資料

### ③ 災害廃棄物処理計画策定の目的

- 💡 はじめて計画を策定される自治体の皆様
  - 1) 計画文書作成そのものよりも、計画づくりの過程を通した発災時の対応力向上を図る
  - 2) 計画づくりを通して、関連主体との調整・関係向上を図る
- 💡 すでに計画を策定された自治体の皆様
  - 1) 発災後の柔軟な対応を可能とするよう、対応の細部よりも、原則を重視する(想定通りの災害は起こらない)
  - 2) 災害と、災害に対応する人間社会に関する正しい知識に基づいて策定する(正常性バイアス)
- 💡 計画内容の充実を目指される自治体の皆様
  - 1) 「持続可能な」災害対応を考慮する(訓練の実施などの平時の備え)
  - 2) 災害マネジメントサイクルを通した計画とする

### ② 近年の災害の特徴【水害】

❗ 令和3年には宮城県に台風が観測史上初めて上陸。  
(平成28年には北海道で初めて4つの台風が上陸)



出典: 国土交通省

### 事例: 令和元年台風19号発生からの流れ



## ②勉強会(浜頓別町開催)

### ■講義・講演



### ■演習・意見交流会



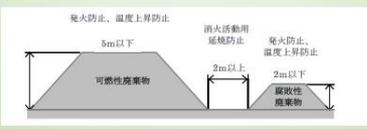
# ③勉強会(羽幌町開催)

開催日時	開催場所	参加者
令和4年10月26日 10:00～16:00	羽幌町中央公民館 第1研修室	豊頃町、様似町、平取町、小平町、 天塩町、苫前町、留萌市(7市町村) 羽幌町外2町村衛生施設組合 (1組合) 留萌振興局

## ■講義資料

### 参考: 仮置場のレイアウト検討にあたっての留意事項

- 【可燃性廃棄物・木くず等】
  - ✓ 発火や温度上昇を防止するため、可燃物の積上げ高さは5m以下、一山当たりの設置面積200㎡以下とする。
  - ✓ 畳等の腐敗性廃棄物は、積上げ高さは2m以下、一山当たりの設置面積100㎡以下とする。
  - ✓ 火災が発生した場合の延焼防止のため、山と山は2m以上離して集積する。



- 【家電4品目】
  - ✓ 家電リサイクル法での処理を行う場合、仮置場で平置きする必要があるため、平置きを考慮した面積を確保する。
  - ✓ 家電類は便乗ごみを誘発する可能性もあるため、仮置場ではなく、クリーンセンター等の管理可能な場所への直接持ち込みに限定する等の手法もある。

### 災害廃棄物処理の流れ



※名称に統一された規定はなく、自治体や事例によって呼び方は異なる

# ③勉強会(羽幌町開催)

## ■講義・講演



## ■演習・意見交流会



# ④勉強会(倶知安町開催)

開催日時	開催場所	参加者
令和4年10月28日 10:00～16:00	倶知安町中小企業センター 研修室	黒松内町、蘭越町、倶知安町、積丹町、仁木町、余市町、真狩村、京極町、留寿都村、赤井川村、寿都町、浜頓別町、利尻町、利尻富士町、釧路町、釧路市、岩見沢市(17市町村) 利尻郡清掃施設組合(1組合)

## ■講義資料

### 仮置場の面積

> 東日本大震災では、仙台市で発生した災害廃棄物量の約50%が同市の設定した一次仮置き場の最大保管量であった。  
 また、東京都大島町では、H25による土砂災害における災害廃棄物処理においては、約25%であった。

出典:東京都(H27)

### 仮置場の配置事例

Good Practice

> 整然と分別され、侵入した車両が渋滞しないように、一方通行によりすべての分別場所を回遊できるように配置されている。市民には事前周知済。  
 > 敷鉄板・重機の手配、畳の積み上げ高さ制限(2m)、事前の土壌調査等を実施。

出典:令和2年度中部ブロック災害廃棄物対策セミナー(環境省R2)



# ④勉強会(倶知安町開催)

## ■講義・講演



## ■演習・意見交流会



## ⑤対面による支援

現地等での確認が必要な自治体に対しては、自治体へ訪問し対面による支援を行った。

主な支援内容として、仮置き場候補地の設定、水害による被害想定算出、ワークシートの作成等を実施した。

振興局エリア	対面による支援
空知	滝川市※、由仁町
上川	名寄市、南富良野町
十勝	帯広市、更別村、浦幌町
釧路	釧路市
留萌	留萌市
計	9自治体

※滝川市は2回にわたり対面による支援を実施。

